



お産&子育てサポート

発行・編集
お産&子育てを支える会
代表 齊藤 智 孝
編集者 東 直 美
TEL/FAX 090-7103-2240



滋賀医科大学附属病院のオープンシステムに向けて



朝日新聞の「丘峰喫茶店によるこそ」のコーナーで 5月26日(水)から始まった「どうなるお産」シリーズが 7月28日(水)で 10 回目を迎えました。これからのお産がどうなるのか?どんな道があるのか?を見つめる記事になっています。共同助産所「お産子の家」のこの事も華々しく第 1、2 回目に取り上げてくれています。産婦人科医の減少、3 年後の働き方改革による医師の長時間労働の禁止等の問題から、滋賀県でも多くの産婦人科医院や病棟が閉鎖されています。そのような現状を踏まえ、今回の 10 回目では、滋賀医科大学附属病院の出産のオープンシステムについてでした。何らかの理由で転院すると転院先のスタッフがお産に関わり、外部の者が関わることは無理です。しかし、医大では契約を結べば外部の医師や助産師が転院した妊婦さんの出産をサポート出来るという、「オープンシステム」を設けています。契約者に開業助産師は無いようですが、現在、お産子の家のメンバーが契約に向けて動き出しています。

自然なお産を希望して助産所に来られる妊婦さんが、医大での出産となった時のショックは計り知れません。そんな時に開業助産師が医大に付き添いお産も関われるとなると、妊婦さんの気持ちは非常に落ち着きます。場所が変わっても、気を許せ、頼れる助産師にお産の時に付いてもらえるとなれば有り難いことです。



「本来お産の 7～8 割は医師の積極的な関与なしで誕生する。健康な妊婦のお産を助産師が扱うことは法的にも認められている。」「しかし、そういうお産でも急変することもある。それをどう捉えるか、医師も助産師、妊産婦、その家族、出産に関わるすべての人が『リスクを負う』と言う意識改革が必要である」と、医大の産婦人科教授が語っています。重い言葉だと思いました。

お産特集

開業助産師が関わるお産を選んだお母さんの感想文です。(ニュースレター No.58 より)

自分のお産をマネージメント



一人目の子を病院で産んだのですが、知人の助産婦さんのお陰でおっぱいで育てることができ、「出産は自然なことなんだ」と思えるようになりました。そこで、二人目の子の妊娠がわかったとき、真っ先に助産婦さんに頼みたいと思いました。はじめは助産院での出産を考えていたのですが、ベテランの助産婦さんに、家族と一緒にいたいという私の希望を話すと、「家で産むのが一番よ!」と言われ、決意しました。

しかし、妊娠後半に尿たんぱくが増え、足のむくみもひどくなり、このままでは自宅出産は無理かもしれない、という状態に。自分の健康管理もできない不甲斐なさに悔しい思いをしましたが、何とか正常値に戻すこと出来ました。ところが、あと 10 日で正産期に入るといときに、今度は陣痛がきてしまったのです。病院の出産であれば、少し早く産むことにはなりますが、赤ちゃんも元気なので、そのまま産んでいたはずですが、自宅出産をしたいという私の意思を尊重してもらい、入院して陣痛を抑えることになりました。自然に出産したかったのに、医療の力を借りて、いわば不自然な形で陣痛を抑えてしまい、お腹の中の赤ちゃんに申し訳ないという気持ち、上の子に寂しい思いをさせてしまったという気持ちで、「自宅出産をしたいという私のわがままから、こんなことになってしまって…」と入院中は弱気になっていました。けれども、病院の看護婦さんから、「自分のお産をマネージメントできるなんて、素晴らしいことよ!」と言われ、大いに励まされました。今回の



自宅出産を担当して下さった二人の助産婦さんも、毎日のように様子を見に来て下さり、お二人とも、最善を尽くそうと考えて下さっていることが伝わってきて、私も再び頑張ろうという気持ちになりました。そして、無事正産期に入り退院しました。

これでいつ産まれてもいいよ!とお腹の赤ちゃんに言っていたのですが、結局産まれたのは予定日の 4 日前でした。早朝に陣痛が始まり、助産婦さんに連絡。出産に立ち会う予定だった夫は、どうしても仕事があるということで、早めに出勤。徐々にきつくなる痛みを感じながら、台所に立っておにぎりを作ったり、助産婦さんとおしゃべりしているうちに、「いよいよ、産んだ。」という快い緊張感が高まっていきました。午前 8 時頃には、仕事から帰って来た夫と上の子も四畳半の狭い部屋に入り、私の陣痛を見守ってくれました。いよいよ立っていらなくなると、助産婦さんが手際よく、ボールをお腹に抱かせ、楽な姿勢をとらせてくれました。左手を夫に、右手を助産婦さんに握ってもらい、正面には上の子が立ち、私は必死の形相でいきみをこらえる。必死になっている自分を冷静に見ているもう一人の私がついて、不思議な感じ。「赤ちゃんの頭が出てきたで!触ってみる?」といわれ、自分の手で触る。暖かい!「赤ちゃんに会える」という喜びと、「赤ちゃんも頑張ってるんや!」という気持ちが湧き起こる。しんどいけれども、たまらなくうれしいという気持ちが全身を覆う。





そして、午前10時過ぎに生まれてくれました。すぐに、その場で布団を敷いてもらい、へその緒がつながったままの赤ちゃんを裸の私のお腹の上に乗せてもらい、この上ない幸せな気持ちでした。

上の子は、自分の知っている母親が形相を変えて産む姿を見て、びっくりしたようですが、今では妹を大切な家族として可愛がっています。しかし、妹が生まれた翌日から、頻尿が始まりました。やはり、出産の現場が衝撃的だったのと、自分だけの母親だと思っていたのに、妹に母親を取られてしまったと感じたのでしょう。頻尿は3週間ほどで治まりましたが、助産婦さんは、「お兄ちゃんどうや？」と上の子のことまで気にかけてくださり、相談にのって下さいました。出産だけでなく、育児、おっぱい、家族の有り方など、出産についてまわるあらゆることに心をかけて下さり、本当に有り難かったです。



助産婦さん泣かせの妊婦でしたが、最善を尽くし、妊婦である私の思いも大切に下さった二人の助産婦さんへの感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。出産は危険を伴うということをもっと知ったのですが、きちんと対処できるシステムがあれば、産む側にとっては、お産は日常生活の中にあつてよいものだという思いも強くしました。

「お産の現場の危機」が取り上げられているこの頃ですが、「お産の現場」とは決して医療機関や施設のことではなくて、「出産する人とそれを支える人がいる場」のことだということを実感しています。いいお産をしたことで、いい育児のスタートを切らせてもらえたと、助産婦さんや周りの人達に感謝しています。 J. S 記

クリニックのオープンシステムを選んで



一人目、二人目の時は、私達家族にとっては、病院で出産することが当たり前であった。

病院での出産は、分娩台での出産。でも、陣痛から出産までひたすら「痛み」との戦いであったように思う。自分でもどうすればいいのかわからず、陣痛の痛みを家族に当たり散らしていたようにも思う。出産後も、「無事に産まれて良かった」とは思ったものの、疲労感と脱力感のようなものが強くあつた。

今回は3回目の出産であり、私にとっては最後の出産。最初は普通に病院へ足を運んでいた。でも、最後の出産。「痛い」だけのお産では無く、「家族と一緒に自然なお産がしたい」という気持ちが何処かにあつた。そんな時A助産師さんに声をかけてもらい、以前から信頼していたA助産師さんに出産をお願いしようとする決めることができた。でも、夫は畳の上での出産には賛成ではなかったようである。「何かあったらどうするの!？」という不安でいっぱいだったようだ。

A助産師さんは、毎回定期健診と一緒に来てくれ、お産を迎えるまでの生活についてのアドバイスなど色々なことを教えてもらった。その内容はいつも夫に話していた。又、A助産師さんから夫へオープンシステムの話をしてもらった。夫の気持ちに少しずつ変化がみられ「A助産師さんなら信頼できるし、安心して出産をお願いできる・・・」と思うようになったようだ。



陣痛が始まってから出産まで、A助産師さんとB助産師さんが付き添い、陣痛時には身体をさすってもらい、出来るだけ楽な体勢でいられるように工夫をしてもらった。陣痛の痛みはあつたが、精神面でも支えられ、安心して身を任せることができた。陣痛に合わせた呼吸を行い、何回かの強い陣痛の後に「頭見えたよ～触って～」「出てきたよ～」と言って、臍の緒も付いたまま直ぐに、私の胸に赤ちゃんを抱っこさせてもらった。胸の上にいる赤ちゃんの温もりを肌で感じ、何とも言えない達成感のような幸せな気持ちでいっぱいだった。そして、出産後助産師さんから「上手やったよ」とほめてもらえたことが、今までになかったことであり、出産して良かったと思えた。



又、上の子はおっぱいが上手く飲めず、母乳をあきらめ、殆どミルクであった。でも、今回は出産直後から直母を続け「ほ乳瓶は使わんといて、必ず母乳でいける。吸わせたら出る。」と言う助産師さんの言葉どおり、おっぱいだけですくすく育っている。上の子の時からすると、信じられない事である。



3回目なのに、多くのことを学ぶことが出来た出産であった。家族に見守られ、新しい家族の誕生を迎えることができた(残念ながら5歳の姉の方は、肝心な出産場面で熟睡中であり、起きた時には赤ちゃんは私の胸の上でした・・・) いい出産であったと思う。上の子にとっても、とても良い経験となった。出産を見守っていた7歳になる兄は、新しい妹のことを直ぐに受け入れ、とてもかわいがり、大事にみてくれている。

私達家族にとって貴重な経験をさせてもらえたこと、本当に良かったと思う。 匿名記

お知らせ 8月予定表

- 1日(日) 7:00～太郎坊に登る会
- 9日(月) 10:30～ベビーマッサージ
- 16日(月) 13:30～ハローベビー教室
- 21日(土) 10:30～オーガズミックバース上映会
13:30～お産塾
- 23日(月) 10:30～キッズバランスボール
13:30～バランスボールレッスン
- 24日(火) 10:00～妊婦教室 韓 語コクルひろば主催
- 25日(水) 10:30～お産子マミーハウス
- 26日(木) 10:30～お産の手帖・竜王 日だまり学舎主催
- 27日(金) 10:30～産後セルフ整体トレーニング
13:00～産前セルフ整体トレーニング
- 28日(土) 13:30～ママパパレッスン近江八幡
- 30日(月) 13:30～ヨガ教室



* 詳細、申し込みは www.osanko.com のHPより
* お産の相談は随時受け付けています。
* 24・26日のイベントは主催先に申し込みを!
おっぱい塾: 近江八幡8/10, 水口8/24, 安土8/26, 彦根8/28,
詳細は <http://biwakooppaijuku.blog70.fc2.com/>

アルプラザ八日市・水口店で助産師による
妊娠・出産・子育て相談会再開! 毎週水12:30～無料

